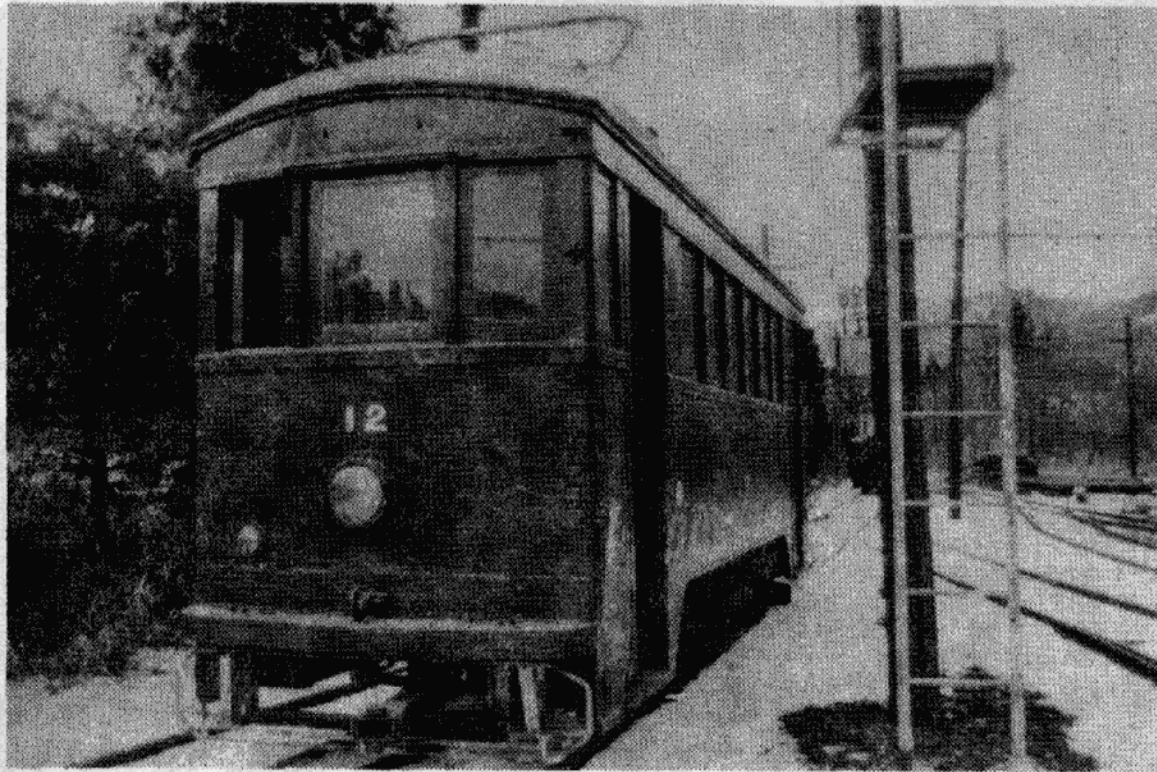


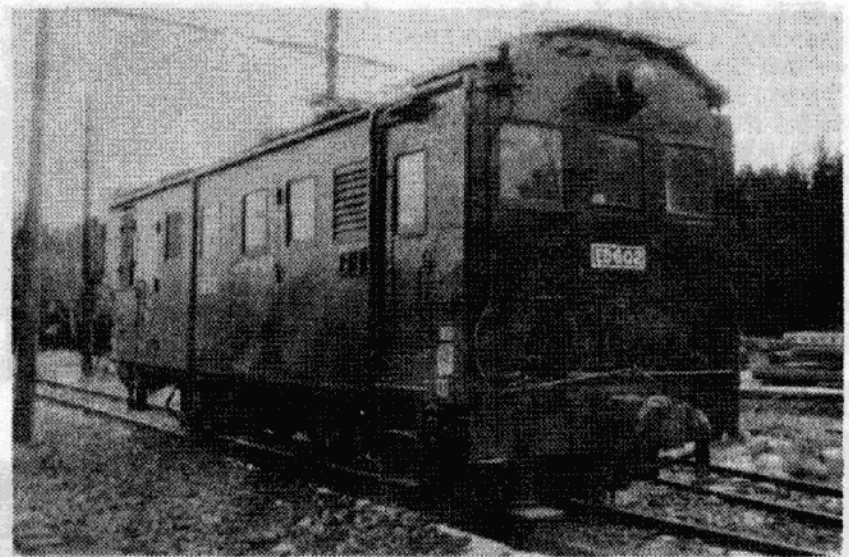
# 数々のエピソードを残して 花電車で引退の花道を飾る

電車の廃止にちなんで、二月二十三日と二十四日の二日間、花電車が日光駅―清滝間を往復しました。赤、黄、緑の電球二〇〇個をつけたあざやかなイルミネーションやモールで飾った花電車三台に、二十三日には市内の小学生を招待乗車させ、二十四日には一般市民に記念乗車券(一枚二〇円)で乗車してもらい、引退の花道を飾りました。こうして、二十五日から全面的にバス路線にきりかえられましたが、同時に軌道の撤去工事も始まりました。日光駅―安良沢間四・二五キロメートルは県が行ない、安良沢―馬返間六・四キロメートルは東武鉄道が行ない、秋の観光シーズンまでには完全に撤去される予定です。とりあえず、東武駅―警察署前までの国道は軌道撤去と同時に全幅アスファルトコンクリート舗装工事が四、二〇〇万円で県によって始まりました。また、バス輸送は八九人乗り

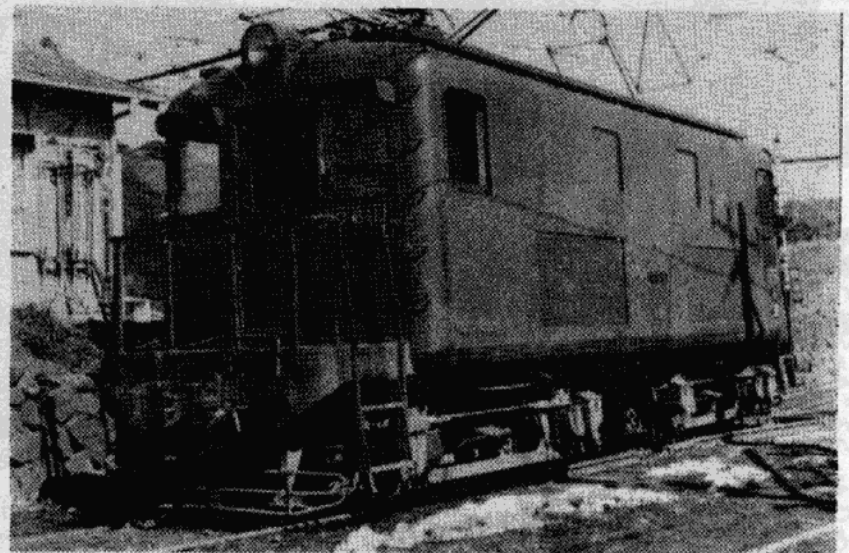
の大型バスが導入され、日光―清滝間の一日三〇往復をはじめ電車より一七往復多い一日六二往復のバスを運行、始発、終発時刻も軌道ダイヤどおりにして私たちの足を確保してくれま



二代目の電車 (昭和29年まで活躍)



戦事中活躍した電気機関車



二代目電気機関車

## 今後はバスにバトンタッチ 私たちのよき足に

軌道撤去については賛否両論があったわけですが、撤去された現在では、観光シーズン時における私たちの足が確保されるかどうかという問題、経済的負担の問題、さらに交通安全ということがいちばん関心事となっていることです。

このことについては市議会でも論議され、また、再三にわたって東武鉄道と話し合いを行なっています。

い、その結果、皆さん方がすでにご承知のとおり輸送対策が打ち出されたわけです。

これに対して不安をお持ちの方もあると思いますが、企業体としては利じゅんが伴わなければ経営はできないわけです。

しかし私たちの唯一の交通機関でもありますので、公共性という点から、この輸送対策の細目にわたって市長と東武鉄道で

覚書を交換し、今後、問題が起こったときは当事者間で話し合いをして解決を図ることになっています。

交通量は今後ますます増加の一途をたどりますが、これに伴ない市としても皆さんの意志を十分に反映した交通対策を立て、交通の安全と道路行政を強力に推進することになりました。

### むかしの停留所

- 日光停留所 (国鉄駅前)
- 相生町 (国鉄駅前交差点)
- 松原町 (かねと前)
- 石屋町
- 御幸町
- 警察署前
- 下鉢石
- 中鉢石
- 上鉢石
- 神橋
- 下河原
- 安川町
- 日光ホテル前 (西参道)
- 四軒母華石
- 田蓮花
- 安良
- 白崖前 (電車庫前)
- 権現音神 (アルミ工場前)
- 観音神
- 明神
- 清岩
- 岩横
- 馬返